

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム青山荘
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県錦江町城元3724-1
記入者名 (管理者)	宮川 英俊
記入日	平成 21年 12月21日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
<input type="checkbox"/> 1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人一人の存在、生活のリズムを大切にサポートしていけるよう理念を掲げ取り組んでいる。	
<input type="checkbox"/> 2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時などに読み上げ意識付けを行ってきた。	
<input type="checkbox"/> 3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関先やホーム内への張り出しを行い、ご家族や地域の方々が来られた際に目に届くようしている。	
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣に民家がないため、日常的なつき合いや交流が難しい状況ではあるが、週3回近くの商店などへの買い物などに出かけつき合いができるよう努めている。	
<input type="checkbox"/> 5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家がなく、地域の方々との交流が難しいため、隣接する特養へ来られた地域の方々との交流を図ったり、地域の行事などになるべく足を運ぶように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	社会福祉協議会主催の福祉体験学習などを通じ、実習や体験学習などの受け入れは行っている。地域の高齢者との話し合いの場については地域の行事や面会、訪問などを通じ働きかけはおこなっている。	○	運営推進会議の中で、話題にはなるもののそれらに対して具体的に事業所での取り組みがないので今後は検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会議などを活用し、外部評価についての取り組みや説明を行い自己評価に取り組み、調査結果についてもミーティングなどを利用し、話し合う場を作っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎日のミーティングの中での報告を行い、話し合いを行っている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当課へその都度相談を行うようにしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在までに、そのような制度を活用する利用者がいない。	○	職員会議や勉強会を利用者して学ぶ機会を企画していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や、身体拘束廃止委員会の中で考える機会を作り、努めている。	○	継続して意識を持つことが必要であると考えているため今後も会議や身体拘束廃止委員会の中で取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族、本人と事前に足を運んで頂き、契約、解約の説明を行い納得頂いた上で契約させて頂いている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員間で情報の共有に努め、働きかけを行い、月の行事などに反映させるように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に個別に報告を行い、遠方にご家族がおられる方については、電話連絡など定期的に行うように努めている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から面会時などを通じコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気を作るよう努めている。また家族会、交流会などを開催し、家族間での意見交換を行える場を作っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議の中で聞く機会を設けている。また日々のミーティングの中で出た意見についても取りまとめ管理者と現場責任者との話し合いに努めている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の希望を聞き、行事の計画を行い、勤務体制を整えるように努めている。職員の緊急時については、隣接する事業所からの協力をもらい状況に応じて体制を取ることができる。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動もあるが、必要最小限で行っており、馴染みの関係が崩れることがないよう配慮している。異動、入職時は利用者、ご家族への紹介をその都度行い、引き継ぎに時間を取るよう配慮している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での施設内研修への参加を行い学ぶ機会を設けている。また、外部への研修への参加については法人内での年間計画に基づき参加したスタッフが、職員会議で発表し報告書を職員全体に配布する体制が整っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区のグループホーム協議会主催のセミナーへの参加などを通じ、交流に努めてはいるが、町内のグループホームとの交流については検討したが、インフルエンザの流行などあり日程の調整が出来ず実現できていない。	○ 今年度中の交流を予定していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間での話し合いがなされ、ストレスや悩みを把握するように努めている。	○ 年齢の違いや個々によつての状況があるため、個別に対応し、またスタッフがストレスや悩みを緩和できる環境作りに努めたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前になるべく足を運んで頂き、面談をして本人の声を聞くようにしている。ご家族や関係機関からの情報収集に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族へも同様に足を運んで頂き、必要に応じて訪問なども行っている。	○ 利用者様同様、ご家族へも「安心」が提供していけるよう関係作りに努めたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に、状況の確認を行い、関係機関への情報収集や必要な援助についての相談を行うようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みを頂き、利用開始に至るまでの間に、足を運んで頂き安心して利用頂けるよう工夫している。利用開始時はご家族への連絡についても密に取り、足を運んで頂けるように働きかけを行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様へ寄り添い、支え合う関係を大切にしている。本人の言葉「つぶやき」を拾い実行表へ書き込み、利用者様の想いについてスタッフ間で考えるようにしている。	○	スタッフに余裕がない状況が生まれると一方的なケアになってしまうこともあると感じている。現場の中で常に意図して取り組むことができるようミーティングなどでの働きかけに努めたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	交流会や行事の際の協力を頂き、共に利用者様を支えているという意識も持っていただけるよう働きかけている	○	ご家族へ参加頂ける行事の企画については参加状況が今年度は減少している。個々の要望に合わせたアプローチをい行うとともに内容や時期についての検証が必要と考えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な連絡や便りの作成、面会時のコミュニケーションを図り、行事の企画などを通じ支援に努めている。	○	今年度より担当にて個別の便りの作成もおこなった所、利用者様とご家族との繋がりがより密になりご家族からの連絡も増えたと感じている。定期的な連絡や行事の企画については今後も取り組んでいきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の友人へ会いに行ったり、訪問して頂くなどの繋がりが持ち、必要に応じ支援している。	○	すべての利用者様がそのような状況ではない。家族や地域の方々が集まるような地域の行事へ参加し、そのようなきっかけ作りに努めていきたいと考えている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフ間で共有し、必要な状況に応じて間に入り関係が保てるように努めている。	○	日によって状態が変動する利用者様もいるため、スタッフが十分把握し関係性が保てるよう継続して努めていきたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も面会をしたり、足を運んで下さる利用者様やご家族の方々もおり、関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望、意向を拾いあげ実践できるよう努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時の情報収集はもちろんのこと、家族や知人の訪問時などを利用して情報収集に努めるようにしている。聞き取りの難しい方については、日々の表情や言動についての検証を行うよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者様の出来る事出来ない事の把握、自宅での過ごし方などを確認し「今」の利用者様の状況と照らし合わせるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員にて毎月、介護計画に基づいたまとめシートを作成し、計画書へ反映できるよう工夫している。	○	ご家族からの希望について少ない。働きかけが少ないためかと感じる所もある。十分に引き出せていないのか、本当に何もないのか感じることもあるためその都度ご家族への働き掛けについては行っていかねなければならないと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	経過記録を作成し努めている、ご家族、ご本人への要望を聞き取り計画の作成に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録についての勉強会や研修への参加を通し、活かせるように取り組んでいる。	○	今後もスタッフ間で検証しながら改善や見直しを行い活かしていけるよう努めたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している特養やデイサービスへの協力を頂き支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	情報収集を行いながら個々の要望に応じ、要請するよう心がけている。	○	働き掛けについて不十分だと感じている所もあるため、今後は協力体制を築いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向に応じて支援が可能な体制にある。(地域のケアマネとの協力体制が保てている)		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議を通じ、2ヶ月に1回は包括支援センターの職員の訪問もあり、協力体制が保たれている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関もあるが、ご本人、ご家族の要望に応じてかかりつけ医は決められ、ご家族の協力を頂きながら受診等行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ、主治医と相談し、診察、治療が可能な体制にある。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設している特養の看護師への相談を行ったり協力医療機関の看護師への相談を行いながら支援している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療相談員や、担当看護師、主治医との情報交換や相談を行えるように面会など努めて行っている。またご家族とも情報交換しながら退院が行えるよう努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	意思確認、方向性については、話し合う場を作り、勉強会なども行っているが、実際にそのような状況が訪れた時にスタッフが支援していけるかは、不安である。	○	研修会や他の事業所での事例など情報収集を行い、終末期についての理解に努めていきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現状を踏まえ、方向性や予測される状態についての話し合いはその都度行い、スタッフ間での情報共有に努め取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	できる限り足を運び、情報提供に努めている。ご家族への連絡や関係機関者との情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けや対応については、ミーティングを利用して徹底するようスタッフ間で心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人に決めて頂けるようスタッフは待つ姿勢を大切にしたいと考えている。	○
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、その日の状況に応じて、ご本人の希望する支援を行っている。	○ 状況に応じて優先順位が変わることについては今後も現場の中で個別に働きかけを行う必要があると考えている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の馴染みの美容室へ行かれる方や状態に応じ訪問のカットを希望されたりと本人、家族と相談に応じてながら支援している。	○ 認知レベルの低下により美容室でのヘアカットが難しくなってきた利用者様もおり、スタッフの配慮が必要な状況も出てきている。本人、ご家族、スタッフと話し合いながら支援していく必要がある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、特養の管理栄養士が考えたメニューを参考にしているが、楽しみとなるように利用者様の意見を取り入れたメニューに変更している。個々の状態に応じ、下ごしらえや盛りつけなどの協力を頂いている。	○ 食材を選び、調理し食べる。片付けるまでの一連の流れの中でどのような場面を支援し、利用者様が生き活きと活動できるかということについてスタッフの意識を常に持ち支援していく必要があると考えている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の希望を聞き、楽しんで頂いている。たばこを吸う方はいないが、毎晩お酒を好まれる利用者様がいます。	○ 今後も楽しみを持ちつつ体重増減や、病状を常に検証しながら、嗜好に合わせていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の状態を検証しその方に合った尿取りの使用の検討や誘導の工夫を行っている。必要に応じ排泄パターンの検証なども行っている。	○	トイレでの排泄が続けられるような支援方法について今後も引き続き個別に検証していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人の状況やタイミングをみながら要望を聞き、入浴については実施している。	○	入浴するまでの支援方法についての工夫(入浴を好まない方、入浴動作の理解が難しくなりつつある方)についてスタッフ間で検証していくことも必要であると考えている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その方のリズムや、状態に応じ一日の中で休息できる場所や場면을スタッフ間で共有し活動など取り入れ工夫している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	興味のあるものや、得意だったものについての情報収集を行い、楽しみごとを持てるようしている。漬け物作りやお菓子作りなど主に家事活動の中で取り組んでいる。	○	その人で興味のある活動があると考えている。さまざまな方向に目を向け画一的にならないよう担当スタッフを中心に情報収集を行いその方にあった活動について考えていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週3回の買い物を利用し個々の希望を聞きながら状態に応じ、お金を所持し使えるよう工夫している。現在管理を行える方は1名のみである。個々の状況に応じレジ前でお金を手渡し、支払いをして頂くなど状況に応じた場面での支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内での行事などの情報収集に努め、ドライブや外食、散歩や買い物など可能な限り支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族に相談し協力頂きながら支援しているが、今年度はご家族との外出よりも個別の外出が多かった。	○	ご家族への働き掛け、協力を頂きながら、また地域への理解を頂けるような取り組みを行いながら今後も実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話をかけたり、ご家族へも連絡を入れていただけるよう働きかけ支援している。	○	今後も引き続きいつでも自由にそのような場面を作っていけるようご家族や地域の方々への働きかけや雰囲気作りに努めていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間の制限をせず、いつでも気軽に足を運んでほしいと常に声を掛け、遠方から訪れるご家族へは、宿泊などについても可能であることをお伝えしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の身体拘束廃止委員会の中で具体的な行為についても手引き書を活用し周知し、現場でのケアについての検証や、法人内での会議や資料を準備し理解できるよう取り組みを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状況(その時の気持ち)を察しさりげなくサポートするよう心がけている。	○	スタッフ一人一人意識が異なる場面も見受けられる。取り組み姿勢が統一されるよう今後も繰り返し研修への参加や話し合うを通して意識していく必要があると考えている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さり気なく見守りが行えるようにリビング中央でミーティングを行うなど配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険と思われる薬や薬品については、なるべく目の届かない場所に保管し危険回避できるよう工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故、ひやりはっと報告書の作成を行い、情報の共有に努め対策についても話し合いを行い工夫している。2ヶ月に1回の事故防止対策委員会の中でも未然に防ぐための取り組みなどについて話し合い検討している。	○	未然に予防が難しいケースもあるため、発生後速やかに対応、処置が行えるよう日頃より話し合い備えるよう今後もしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署へ出向き、講習を受け、備えている。	○	実際の場面に遭遇した経験のないスタッフもいる。今後も繰り返し訓練、演習などを通じ、身に付けていく必要があると考えている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回避難、誘導の訓練を行っている。場所柄近隣に住宅がなく地域の協力体制を整えるよりも隣接する特養からの応援や近所に住むスタッフへの協力要請を速やかに行える体制をとっている。	○	月1回の訓練を通じ、特養スタッフへの協力体制、連携の強化を今後も図る。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態の変化や事故発生の可能性がある事柄については、面会時などを通じ繰り返し話しを行うよう努めている。ご本人の精神面に多大な影響を及ぼす事柄が多いことを説明するようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のミーティングの中での報告を行い、情報の共有に努めている。週1回は検温、血圧測定を行い普段の状態把握を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬については、把握に努め、疑問点については、主治医への相談を行ったり、薬剤師との連携も保たれているが、状態変化や職員の不注意で服用を誤るケースもあった。	○	薬については、厳重な取り扱いを行い、マニュアルの作成についても取り組んでいる。状態の変化に伴い内服薬の変更や追加もあるため、その都度確認し支援に努めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	薬に頼らずスムーズな排泄が行えるように、活動(運動)や食事の工夫(個々の状態に応じて牛乳やヨーグルトの提供をしている)	○	今後も継続して水分のバランスなどを見極め、ケアに活かしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の口腔状態に応じた支援方法を検討し、必要に応じて歯科への相談、調整なども行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事でのカロリーは1400～1600キロカロリーで計算がされている。水分量についても1日あたりの水分量を把握できるような記録をしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	2ヶ月に一度、感染症対策委員会を開催し、委員会メンバーが中心となり、勉強会の開催を行い、手洗い、汚物の処理方法などの演習も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器やまな板の消毒は曜日を決めて行っている。食材の管理については買い出しに出た日付けを記入し、早く使い切るようにしている。食材の買い出しを一日おきに行いその都度冷蔵庫の掃除を行い管理に努め調理後の保存(2週間)も行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先には、花壇を作り季節の花を植え季節を楽しめるようにしている。また玄関先にベンチやテーブルを置き利用者様や、面会にこられた方々がゆっくりと過ごすスペースを設けている。	○	スロープはあるが、利用者様の視点から玄関を真っ進む方が多いため、段差部分に手すりなどの検討も行い安全面についても配慮していきたいと考えている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有する空間についてもスペースを区切ることで互いに気兼ねすることなく過ごして頂けるように配慮している。	○	天井が高く、空調の調整や光の差し込みなどが季節により変わるため、その都度配置など調整していく必要があると考えている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者様の導線に配慮しながら一休みできるように椅子やソファも使いゆっくりと過ごすことのできるスペースを確保している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からの持ち込みなどもあり、出来るだけ自宅での生活スタイルを取り入れられるように配慮している。	○	ご家族への働きかけが、まだまだ不足していると感じているため、ご家族への理解を頂けるよう働きかけに努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	湿温計を確認しながら外気との差を作らないよう心がけている。室内の空調、換気は利用者様一人一人に聞き、手足に触れ調節している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせ検証し、使いやすいよう移動スペースなどは物の置き位置など決めている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	環境面については部屋の入り口が個々に理解して頂けるよう興味のある動物の絵を貼ったり、トイレについても方向が理解できるよう貼り出しを行うなどしている。声のかけ方についても、一連の流れの中でどのような事を理解されているのか、検証するよう心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物周囲も散歩を楽しんで頂けるよう花や野菜を季節に応じ植えたり、部屋の窓から菜園が眺められ、外へ興味が湧くように工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様が穏やかに、笑顔で過ごすことが出来るよう関わる時間を持ち、生活を送って頂いていると感じている。自然豊かであり、利用者様のリズムで屋外への散歩など自由に行き来することができている。同じ年代の方々との交流が、特養やデイサービスを通じ出来る環境にある。スタッフが明るい。